

信濃美術館の基本設計にかかる 「県民リレー・ワークショップ」(北信地域)の意見概要

日 時：平成 29 年 9 月 2 日 (土) 午前 10 時から 12 時

場 所：長野市役所 市民交流スペース

出席者：(株)プランツアソシエイツ 代表取締役 宮崎浩氏、副所長 吉満聡氏
松本透信濃美術館整備担当参与、日向信濃美術館整備室長、塩入施設課企
画幹

参加者：39 名

概 要

[主な意見等] (アンケートへの回答含む。)

【県民リレー・ワークショップ】

- 設計者の話を直接聞くことができてよかった。多くの人に伝えたい。
- ワークショップをもっと宣伝し、多くの人に参加してもらいたい。
- ワークショップはテーマを決めて議論を深めたほうがよい。

【全般】

- ある美術館は、美術品より庭園が評判で観光ルートになっている。美術に関心が薄くても行ってみたいくなる何かしてほしい。
- 美術に関心がない人でも一日中楽しめる美術館にしてほしい。

【設計関連】

- 多岐にわたる県民の意見や要望をできるだけ設計に活かしてほしい。
- 展望広場や城山公園など屋外は天候により快適さが大きく異なる。パースのような景色の連続性はありながら、屋根のある空間ができるとうよい。
- これからの美術館は「最先端の観光施設」との設計者の言葉に共感する。建物の目玉として、善光寺に空でつながるような軸線のデッキに期待している。
- 観光客が多い善光寺からのアクセスが一番大事なのは分かるが、市民が利用する城山プール、少年科学センター、動物園からのアクセスも考えてほしい。
- 駐車場の確保を求める意見が出ているが、地元住民としては駐車場で公園が潰れるのは残念。公共交通の充実を図ることにより、駐車場をこれ以上増やさないでほしい。
- 南信など遠方から来る人のことを考えると駐車場の充実は大事である。

- 東側市道（桜道）の地下を利用して収蔵庫や学習室を設置したらどうか。
- 夜になると美術館が閉館して一帯がひっそりしてしまう。屋外でコンサートなどの催物ができる設計にしてほしい。
- 子どもたち、学校の先生、障がいがある人に鑑賞や学習する機会を提供できる施設にしてほしい。
- 日展などの大規模な展覧会が開催できる展示室の広さを確保してほしい。
- 美術品の展示内容や目玉作品が打ち出せていない中で、展示空間を設計できるのか疑問である。
- 大きな県民ギャラリーをつくっても使われないのでは県民に申し訳ない。全体の面積調整の中でできた県民ギャラリーの中で、美術団体の展覧会の作品の大きさや人数の調整、会期の工夫をしていきたい。ぜひこの計画を進めてほしい。
- 観覧中に休憩できる場所を館の中央につくってほしい。
- 重度の障がいがある子どもの車いす移動は体に負担がかかる。障がい者専用と区別するのではなく、健常者と一緒に使える横になって休憩できる場所がほしい。天井に絵が描かれていたり、何か投影されていると休憩しながら美術を楽しめる。
- 障がいがある子どもを持つ親は、子どもが大きくなるにつれて外出の機会が減る。新しい美術館ができたらぜひ出かけた。天候が悪い日でも行くのに困らない設計にしてほしい。
- 障がいがある人にやさしい美術館（トイレの広さ確保、おむつ交換ができる大きなベッド、いろいろな形態の食事に対応できるカフェやレストラン）

【運営関連】

- これからの美術館のあり方を考えないと建物ができて数年で人が来なくなる。ワークショップを中心とした勉強と遊びを主体にしながら集客を図るのがよい。
- 建物の充実と併せて、企画展の充実も図ってほしい。
- 展示品の目玉を持ってほしい。
- ミュージアムショップのグッズを充実してほしい。
- レストランは必要。テナントは1社でなく、興味のある複数の経営者のコラボレーションでもよい。
- レストランを美術館内につくるのが難しければ、美術館の周りに民間企業を誘致すべきではないか。

【城山公園関連】

- 城山公園は、今後も気軽に来られる「憩いの場」であってほしい。
- 公園の樹木は針葉樹の他、広葉樹も植えてほしい。

(以上)